



西洋経済史A(坂出)

第8講 マーチャント・バンカーの台頭

2004年6月4日

1



前回の講義

- 演習問題「19世紀末からのイギリス産業衰退の原因を論ぜよ」
- 1 イギリス産業はなぜ衰退したか？
- 2 イギリス製鉄業の成立過程
- 3 製鉄業における産業革命
- 企業者活動の衰退
- 産業経営者のジェントリ化
- →では、イギリス製造業の衰退を招いた「事業環境」はどのような構造を有していたのか？

2



本日のテーマ

- 演習問題「イギリス資本主義化におけるマーチャント・バンカーの役割を論ぜよ」
- 1 イギリス革命と商人・金融利害
- 2 マーチャント・バンカーの概念と機能
- 3 有力なマーチャント・バンカーと国家財政

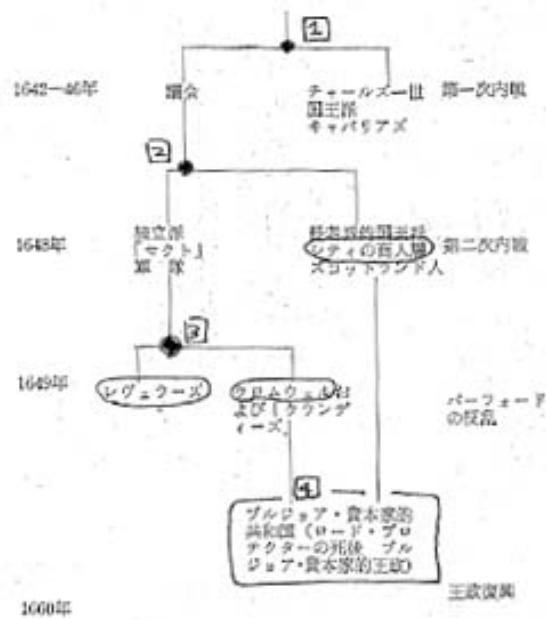
3



【1】イギリス革命と商人・金融利害

1. イギリス革命における長老派
2. 土地利害と金融利害の融合
3. アムステルダムからロンドンへの金融中心地の移動

4

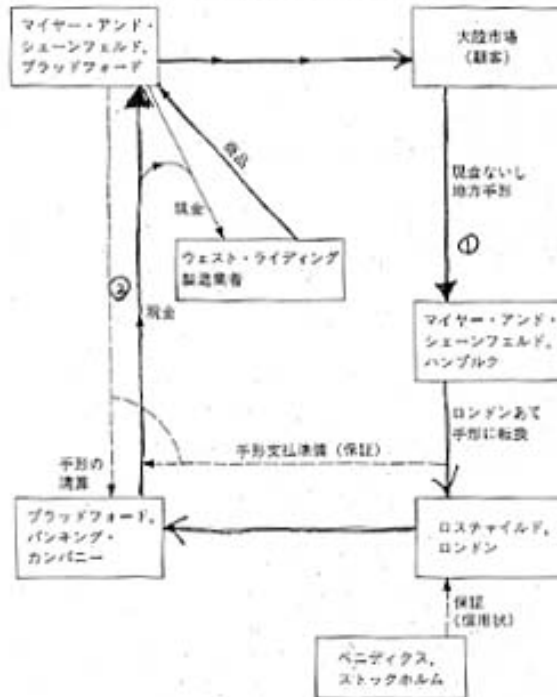


ホーレンシヨウのウラズとイギリス革命 (増補) 22頁

● ● ● | 【2】マーチャント・バンカーの 概念と機能

1. マーチャント(merchant)業務
2. 手形引受業務(acceptance business)
3. 発行業務(issue business)

図7-1 ウェスト・ライディング輸出貿易における商品と信用の流れ



(注) 現金を提携する地方的に設立された銀行の決定的役割は容易に認識される。このことは大抵の大きなビジネスが手形でなされ、手形資金の不足がまれでなかった時には、とくに重要である。

from Manchester to London. 225頁

【3】有力なマーチャント・バンカーと国家財政

1. ベアリング商会
2. ロスチャイルド商会
3. マーチャント・バンカーと政府



小括と今後のテーマ

- ① イギリスにおけるシティの位置
- 「ロンドン＝マンチェスター枢軸」？

- ② ロンドンを中心とした国際的多角決済システムの構造

7



次回のテーマと演習問題

- 第9講 穀物法と自由貿易体制（6月11日）
- 『経済史入門』8章1
- 『欧州経済史』2章4

- 演習問題「穀物法をめぐるマルサスとリカードウの論争を論じなさい」

8